

## 目次

- P 1 中日本航空専門学校第一回同窓会開催、創刊を祝して  
 P 2 会員紹介  
 P 3 奥田松一郎氏の眞実と迷信  
 P 4 卒業生近況報告(みんなの広場)  
 P 5 母校はいま.....

# 航友会だより

・愛知県江南市中江森25〒483/T E L (05875) 4-4843・発行所/中日本航空専門学校航友会・発行人/会長・鈴木英夫・印刷所/株式会社・印刷の栄文社

航友会だより  
名称は「航友会」に決まる  
中日本航空専門学校第一回同窓会開催

会は、昭和五十四年七月十五日午後一時より、中日ビル五階にある中日パレスにおいて、全国各地から集まつた卒業生五十八名と来賓十三名が出席して、盛大に開催された。

総会に先立ち、浅野敏美同窓会発足準備委員会委員長から「中日本航空専門学校は昭和四十五年四月に開校し、卒業生は創立十周年を迎えるに当り、同窓会を是非発足してほしい」という要望が卒業生の間で強く出されるようになり、これは同時に学校長をはじめ全員の強い要望でもありました。本校を卒業した若手職員有志十人が同窓会発足準備委員会を組織し、具体的には昨年四月ごろから準備を進めて参りました。準備委員会は学校業務終了後、委員会を開いて作業を進めてきました。わが校の卒業生は何分にも遠方の方々が多く、名簿の作成や同窓会案内の通知など、並々ならぬ苦労が多かつたわけですが、卒業生の暖かい協力と出席された会員の方々のおかげをもしまして、本日ここに第一回同窓会を盛大に開催でき、

今年七月同窓会の発会式が、名古屋の中心部中日パレスで盛大に行われ、多忙な皆さんに才暇を置いて集つてこられたのには、頭がさがりました。名古屋附近に就職している人には、都合が良かったのですが、今後は東京、大阪、その他の場所でもこのような会合が行われるよう期待しております。今年も昨年同様に在学生の父兄との懇談会に平行して金業を訪問し、卒業生へ激励と新たな就職開拓のため、札幌から那覇に至る十五ヵ所の土地を訪ねました。航友会開催者は、卒業生及び今後

の活動を祝して参りました。我々学校関係者は、卒業生及び今後

の活動を祝して参りました。今年より良い前進と飛躍が出来るよう

なります。各会員及びご家族の皆様のご発展を祈ります。

## 創刊を祝して

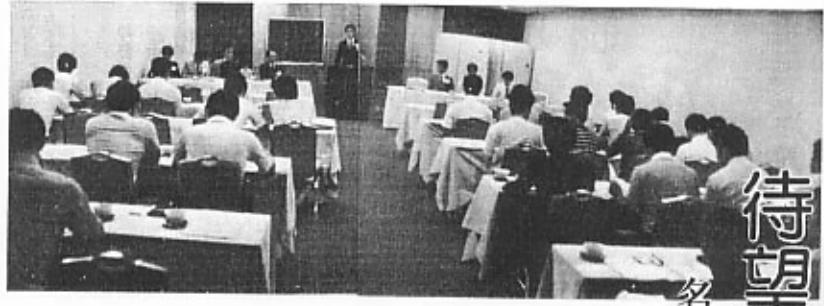
学校長 鈴木 英夫

した。北は北海道警察航空隊や日本近距離航空の札幌支社など、南は南西航空、エアーコン、及び沖縄エアーポートサービスなど、卒業生諸君と会い、企業の上司と意見を交換し、また、まだ卒業生が退出していないところには学園及び学校の内外に渡る状況を説明して今後を依頼してきました。

航空機関係のはか、例えは日産自動車、日産プリンス販売本社、東北三菱、日産プリンス名古屋、京都三菱、香川ではトヨタ、三菱、日産、日産プリンスの各社、それから日産プリンス

県の各務原飛行場（川崎重工及び航空自衛隊岐阜基地の所在地）の東北東五ヶ島、日産プリンス名古屋、京都三菱、キヤノンの各社、それから日産プリンスを新たに出現させたところを希望します。

なお二年ないしは三年のうちに岐阜にており、すでに造成工事が開始されたことをご報告申し上げて同窓会機関紙



わが中日本航空専門学校第一回同窓会は、昭和五十四年七月十五日午後一時より、中日ビル五階にある中日パレスにおいて、全国各地から集まつた卒業生五十八名と来賓十三名が出席して、盛大に開催された。

総会に先立ち、浅野敏美同窓会発足準備委員会委員長から「中日本航空専門学校は昭和四十五年四月に開校し、卒業生は創立十周年を迎えるに当り、同窓会を是非発足してほしい」という要望が卒業生の間で強く出されるようになり、これは同時に学校長をはじめ全員の強い要望でもありました。本校を卒業した若手職員有志十人が同窓会発足準備委員会を組織し、具体的には昨年四月ごろから準備を進めて参りました。準備委員会は学校業務終了後、委員会を開いて作業を進めてきました。わが校の卒業生は何分にも遠方の方々が多く、名簿の作成や同窓会案内の通知など、並々ならぬ苦労が多かつたわけですが、卒業生の暖かい協力と出席された会員の方々のおかげをもしまして、本日ここに第一回同窓会を盛大に開催でき、

今年七月同窓会の発会式が、名古屋の中心部中日パレスで盛大に行われ、多忙な皆さんに才暇を置いて集つてこられたのには、頭がさがりました。名古屋附近に就職している人には、都合が良かったのですが、今後は東京、大阪、その他の場所でもこのような会合が行われるよう期待しております。今年も昨年同様に在学生の父兄との懇談会に平行して金業を訪問し、卒業生へ激励と新たな就職開拓のため、札幌から那覇に至る十五ヵ所の土地を訪ねました。航友会開催者は、卒業生及び今後

の活動を祝して参りました。我々学校関係者は、卒業生及び今後

## 中日本航空専門学校第一回同窓会開催

### 名称は「航友会」に決まる

### 役員紹介

今年七月同窓会の発会式が、名古屋の中心部中日パレスで盛大に行われ、多忙な皆さんに才暇を置いて集つてこられたのには、頭がさがりました。名古屋附近に就職している人には、都合が良かったのですが、今後は東京、大阪、その他の場所でもこのような会合が行われるよう期待しております。今年も昨年同様に在学生の父兄との懇談会に平行して金業を訪問し、卒業生へ激励と新たな就職開拓のため、札幌から那覇に至る十五ヵ所の土地を訪ねました。航友会開催者は、卒業生及び今後

の活動を祝して参りました。我々学校関係者は、卒業生及び今後

の活動を祝して参りました。今年より良い前進と飛躍が出来るようになります。各会員及びご家族の皆様のご発展を祈ります。

各位及びご家族の皆様のご発展を祈ります。

監査 今泉善孝 (第六期生)  
 監査 伊藤恵二朗 (第六期生)  
 会計 高尾定良 (第五期生)  
 書記 新納善八郎 (第五期生)  
 幹事 岩本吉則 (第六期生)  
 幹事 山田登 (第五期生)  
 幹事 千神辰己 (第三期生)  
 副会長 上村信雄 (第一期生)  
 副会長 浅野敏美 (第一期生)  
 会長 鈴木英夫 (学校長)

上田 鎮男 (敬称略)  
 上田鉢一郎 教務部長  
 萩尾 木村正 教務課  
 越山 和田邦久 事務局長  
 中込 晴雄 主席実習教官  
 小野 木村正 教務係長  
 木村 武夫 教務係員  
 辻川 藤雄 事務局  
 三島 岩崎弘 教員  
 田口 重信 教員

監査 今泉善孝 (第六期生)  
 監査 伊藤恵二朗 (第六期生)  
 会計 高尾定良 (第五期生)  
 書記 新納善八郎 (第五期生)  
 幹事 岩本吉則 (第六期生)  
 幹事 山田登 (第五期生)  
 幹事 千神辰己 (第三期生)  
 副会長 上村信雄 (第一期生)  
 副会長 浅野敏美 (第一期生)  
 会長 鈴木英夫 (学校長)

昭和54年12月1日

航 友 会 だ よ り



監修は和田邦久教授

祝賀会では校歌を合唱

祝賀会では校歌を合唱

最後に役員会を代表し、浅野敏美副会長が「以上、決定されました」といふに軽妙な口調で、会員全員を今後連絡してゆきたいと思いまして、幸運な九四人のうち、会員数は現在二六一人です。さらに皆様のご支援と呼びかけてより一層同窓会の輪を広げ、本会を充実させ、職場の情報交換を活発にし、学校の発展に協力していくことを心から願う」と力強く閉会の辞を述べて、創立総会を終了した。

のために一首つくってみました。  
『雨雲をぬけて 紅碧の天空へ  
つばさ広げて 航友はゆく』

ださいました。卒業生諸君も各方面で立派に活躍されていることを機会あるごとに聞き、肩身が広い思いです。全日本空・国際空港事業・日産プリンス名古屋などにおいても「あそこの卒業生ならば、間違いなし」という言葉を聞き、非常に皆さんのが頼もしく見えました。卒業生の活躍があればこそ、後に続く後輩も見習ってゆきます。お互いにお互いの航空知識を高め、この

講師  
中込

晴雖氏



パーティー会場で

理事 上田 鎮男

イスをうけられる会員のみます。航空技術界に足るんでもらいたい。

講師 奥田敏一郎  
(初代)

不動産専門学校の卒業生であるものであります。

歌も入り、話はすんで、終了時間が過ぎても、別れがたく、四年前に出来た校歌を全員で合唱した。上村信雄・鶴淵会長の音頭により、万歳を三唱して、母校の發展と同窓生の再会を誓って、午後四時三十分、散会でした。

なお、松下正寿理事長は都合で残念ながらこの出席いただけませんでしたが、「これから時代は、資糧不足の時代がやってきます。そんな時代にあって、日本人は国際感覚と国際知識が大切であり、特に空軍整備に携わる人は、国際的な広い視野が必要です。君たちに期待します」といふ内容のメッセージと共に祝儀が寄せられたこと、報告いたします。



第一期牛

和介  
会員

第五期生

高畠 佐要 錦足 青	竹末 下	中 桑
尾田 夕田 立山	内 富 平	西 原
木 克修 正光	琢 庄	田代 秀
定桂 吉一 和男	孝 宏	之 風
良春 幸也	雄	英
米村 土武 鴻高	（昭和五十一年三月卒業）	
関谷 上里 田上 康	VVVV	伊
輝 弘 幹雄 祥	栗 上	名
雄 謙之 明彦 然悦	本 出	森
	真 野	本
	榮 正	智
	造 稔	鐵
	男 稔	秀
	夫 親	

# 第四期生

(昭和五十年三月卒業)

加藤一郎	伊藤誠
藤野誠	伊藤一郎
一元真	辰巳和也
元宏	吉川信
男	野村和也
中田豊	山口実
田中順	藤井洋行
春誠	並木実
志郎	山口実

第三期生  
藤田弘毅  
中川幸介  
館道信  
增加園  
昭和四十七年三月卒業

植東義孝靖  
第六期生

生 手 印

第八期生  
(昭和五十四年三月卒業)

宇井臨谷藤浜新  
田川本沢井山田納  
康諭武隆善八  
行宏等夫萬二美幸郎  
篠竹曾佐並山構齊小  
谷我藤原下本藤林  
吉琢磨 開慎弘慎  
春祐亞勇士輔之二

水前庄平西中佐々谷田居田村木好浩 俊知信昇穂治貢和志夫  
森畠鶴中真桜齊 田家田藤基義一哲の一高  
關弘義生武彦庄

# 第六期生

山矢宮松馬前古船福福林野中中中茂千田谷棚田田鷹須鈴崎古源黑熊小規奥卜岩井石生飯有赤我山山御望村松星比原中  
慶羅口櫛中代野藤木戸後馬坂沢山粗沢部切上田川田沼村沢妻口口沢月井原野嘉 村下部上田尾上田川戸山本崎田津村原井次葉間口櫛中代野藤木戸後馬坂沢山粗沢部切上田川田沼村沢妻口口沢月井原野嘉 村  
晴武好和由 康率修哲余八 喜勝康憲新康芳啓 莊裕隆 三 剛 剛成茂秀純 正明精秀多一 邦邦信貢英道新 和良  
涉已久隆之喜熟博行一二吉郎泰明広人洋郎秋弘一弘一二司清勇靖至士永史永樹一一司和博一幸志博幸彦夫庄彦夫利一実弘

渡渡吉山山元宮深宮宮齋美三繞古日林長羽沼寺津武竹造鈴清島塙坂五小幸木木小奥太遠岩井市石板浅青相吉吉山  
谷本喜村下野田田藤漸上丸井吉井木原沢村田城  
辺辺川下崎栄本山原城城田進沢熊木置川島部沢里智内田木水崎谷井藤曾喜村下野田田藤漸上丸井吉井木原沢村田城  
雅利功安哲弘康真誠一康昌伸輝正昌康正榮正泰健一敏哲美真勝正都利忠正隆廣英正孝英正信和  
津之幸也嵩章治美一勲治美幸夫幸雄基明樹浩瀬雄正一久藏也勝之郎男二誠弘彦俊昌淳男学博幸一幸紀人司明勝幸也



## 母校はいま・・・

五 友会だよ

昭和54年12月1日

手前より FA1100-1六〇、  
C1-七七、FA1100-1八〇  
C1-七〇日

中日本航空専門学校も某年で創立士官共用と並んで創立されましたが、多くの卒業生諸君は卒業後一度も母校を訪れたことがないということは、何よりも珍しいことでしょう。初期の卒業生の方は学校創立直後、入学されたわけですから、母校創立の創世期のほんの一部分に触れただけだと思われます。何においても創世期とともに、呼ばれる時代にはあらゆる活動がめまぐるしく変動する時代がその本流であるのかわからなくなってしまってしまったものではないでしょうか。この時期に入学された方々は、必然的にこの影響を受けざるを得なかつたものと思います。結局卒業するまで、一休例を勉強したのかわからずじまいという好ま

かかる印象しかないとわれられる方も多いと思ひます。しかし、近年、母校の運輸業者には目をもる企業からも絶賛され、運輸業者にはじめ各関連企業からも絶賛され、現在のところは、卒業生の中にものばやし評を耳にされた方が多いことと思ひます。

現在のこうした好況は過去のあらぬものと確信しております。一度卒業生の方々に今一度母校の現況を再認識していただきなく、この紙面を借りてお知らせする次第となりました。

立以来の念願であつた運輸大臣指定幹事従事者養生施設となりました。この年、九〇%強であった実地試験合格率は翌年には一〇〇%を達成、引き続き本年は一〇〇%の合格率をあげ、学科試験のみ終了したの合格率をあげ、運輸省その他関連業界の評価を一段と高める結果となりました。

この好評に伴い、必然的に就職状況も好調を維持しています。全日空、東亜国内航空から、それを五十年一周年より定期的に採用もまとめて、そちらも就職状況をよく保つ

この上うに、母校は着実に發展しているわけですが、これらの原動力ともより、つたものは学内の充実はもとより、卒業生諸君の各界における活躍により、一層活躍をかけたものと確信しています。我々は中日本就農専門学校としてさらにこの評価を高め、近い将来必ず「我が母校は日本一だ」と自負できる日がやつてくるはずであります。その日のために我々卒業生同志の熱意と努力、北上する者たちの奮闘が望ま

本年より開  
入会金を振込み下さい。

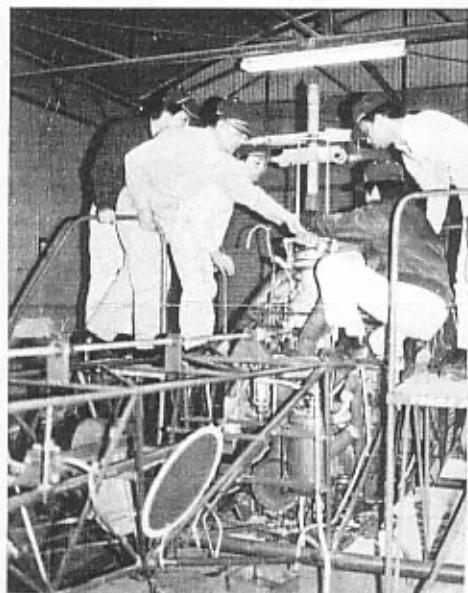
## ▼ 航友会機関紙名募集

航空会社発足に際し、記念すべき機  
紙を創刊したのですが、紙名があり  
ません。そこで、広く卒業生より、こ  
とにふさわしい名を募集しています。  
お一人何点でもかまいませんので、  
よろしくご応募下さい。

尚、採用させていただいた名称は、  
号より正式名として使用し、その方  
は、記念品を贈呈いたします。

・締め切り  
後

皆様のご意見を要望を反映しようと  
面しております。文章、写真、マン  
ガ等、お寄せは一切問い合わせませんの  
でどうぞ気軽にお寄せ下さい。  
委員には、二期及び四期の関係者が  
りませんので、特にこれらの卒業生  
の方々にはご協力をお願ひ致します。



本年より開始された「ヘリコブター実習教室」

躍を期待し、会員を募っております。  
この機会に貴殿もぜひご入会下さい。  
尚、入会方法は、同封の振込用紙に

▼投稿される方々へ

▼入会案内



▼求人に関する情報  
あるいは職を求める  
方々へ

現在、離職中の方、あるいは転職を考えている方、一度本校学生部まで連絡下さい。又、身近に求人情報がございましたら、多少にかかわらずぜず学生部までお知らせ下さい。

新理事長に松下正寿氏



### ある日の増収用量

り、その他エジンバラ、リンクト  
ーナー等の充実ぶりは充分他の誇  
れるものと思います。又施設面では定  
員の増加のため現校舎では余る  
狭まとなつたため、今年度より三年計  
画でそつくり移転することになりまし  
た。新校舎は岐阜県関市追間吉田洞、  
平田地区などの山林に、管理棟鉄第二  
階建て七九〇坪、基本実習棟三八〇坪  
機体・発動機実習棟二・四八〇坪、そ  
の他施設、グラウンド等あわせて三九、  
六〇〇〇坪の広大なキャンパスが完成す  
る予定です。

昭和五十二年には専修学校法案に基  
づき、文部省より専修学校として認可  
され、さらに校名を、「中日本航空專  
門学校」と改め、五十三年には本校創  
立三十一年、弁護士開業、昭和三十年六  
月から福井勇氏に代って学園理事事  
務長正社員が就任され、

学校法人・神野学園では、五十四年  
四月に参議院議員の松下正社員はいま  
ままで元立法院議員の松下さんとはま  
い共に講演を行なった。松下さんはいま  
七十八才だが、本年四月、韓國の民  
衆の心を知るには韓國語を学ばなければ  
ならないと、ソウルの延世大学に三ヶ月  
間の留学をされた。英、独、スペイン語  
等、フランス語に精通の松下さんは、  
これまで六ヵ国語を話されることになる  
ことになる。

▼専修大学商正社員は大正十二年九月立  
教大学文学部卒業、大正十二年九月立  
教大学文学部卒業、昭和四年六月まで米  
国コロンビア大学、カーネギー・ミネソタ  
大学、ジョンズ・ホプキンス大学留学。

今回の機関紙は創刊記念号ですので、全卒業生の方々に、名譜と併せて送ら  
いたしましたが、次回からは会員の方のみとなります。ご了承下さい。

作・付知のむさぎ

中日本航空専門学校航友会紙  
募集係

二意見、ご要望がありましらう、お受け取り申上  
格をお待ちしてます。  
最後に、卒業生各位の今後のご活躍を心よりお祈り申上  
げ、創刊号、完結いたします。  
(編集委員一同)